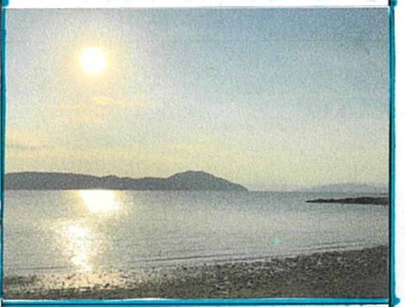
令和2年1月5日（日）

美しい瀬戸内海を守ろう！

～海洋ゴミ問題を知ろう～



四国中央市立
上分小学校
3年
上田 蒼

ぼくの住む愛媛県は、瀬戸内海に面しています。瀬戸内海は、たくさんの島々と波がおだやかな美しい海です。魚がたくさんとれ、カキやワカメの養殖も盛んです。

ぼくはそんな瀬戸内海が大好きです。でも、海岸にはいつも多くのゴミがあります。ゴミのない、きれいな瀬戸内海を守るために、ぼくは海岸のゴミ拾い活動を始めました。

拾ったプラスチックゴミ、

ペットボトルなどの空容器↓

カキの養殖で使われるパイプ↙

瀬戸内海のゴミの特ちょう

カキの養殖用プラパイプや、プラスチックブイ（うき）、発泡スチロールなど、漁業に関係するプラスチックゴミが多い。

？このゴミはどこから来たの？だれかが捨てて行ったのかな？

プラゴミはふつう埋め立てたり焼かれます。でもその一部は、もれ出して海に入ります。

海に入ったプラゴミは、風や波、潮流に乗って、遠い海や、海岸に流れつきます。海岸に落ちているゴミのほとんどはそんな漂着ゴミです。

プラゴミは、生態系に悪い？

海洋プラゴミは、2050年までに、世界中の海にいる魚の総重量をこえるといわれていて、魚や鳥がエサと間ちがえて食べてしまうなど、生態系に悪影きょうを与えている。

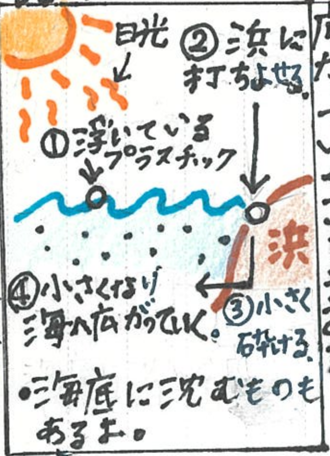
日本には、12隻の海面をそうじしてくれる国土交通省の船があるよ！

海面清掃兼油回収船「いしづち」
愛媛県沖を漂う海洋ゴミを回収して海をきれいにしてくれる。

もっとおそろしい？とても小さなプラスチック

マイクロプラスチックとは？

- ペットボトルなどのプラスチックが0.3ミリから5ミリの大きさまで小さく砕かれたもの。
- プラスチックは熱がかえられたり太陽光に当たるともろくなって砕けて小さくなる。
- 波によって海岸に押し上げられ、浜で小さく砕けたものが、沖に広がっていくこともある。



おそろしい食物連鎖

マイクロプラスチックをエサと間ちがえて食べた小魚を、大きな魚が食べ、その魚を人間が食べる。ほとんどの大きな魚は、内ぞうを取ってから食べるから平気だけど、そのまま食べる貝などから人間の体にマイクロプラスチックが入ってしまう。プラスチックは、うんちと一緒に体外に出るけど、プラスチックについていた有害物質は体に残る。

マイクロプラスチックを研究している愛媛大学の日向博文先生に、研究からわかったことを教った。

瀬戸内海の海岸と海面のゴミは、95%なくせる！

- 瀬戸内海のゴミに多い発泡スチロールは、プラゴミの中でも海水より軽く、遠くに流されやすい。細かく砕かれて広いはん囲に広がってしまう。でも大きいうちは風や波、潮流に運ばれ、海岸に打ち上げられやすい。先生の行った広島湾周辺の調査でも8割が海岸に集中していた。砕けて小さくなると回収はむずかしい。大きいうちに海岸で拾うことが重要。
- 瀬戸内海は陸に囲まれた内海で、海外からのゴミの流入が少ない。だから、瀬戸内に住む人がきちんとゴミを処理して海への流入を防いで、海岸ゴミ回収をがんばれば、海岸と海面に広がるゴミの95%をなくせて、ゴミのない本当に美しい瀬戸内海にしていくことができる！

日向先生と↑

ぼくはこのことを瀬戸内に住む多くの人に知ってほしい。
みんなが意識をかえて、行動をおこせば、きれいでゴミのない瀬戸内海を守れる！

SEABINで海をきれいに！

拾っても拾ってもなくならない、海ゴミを自動で回収するマシーンで海ゴミをなくそうとがんばっている会社があると知って、そのマシーンを見せてもらいに熊本県へ行きました。

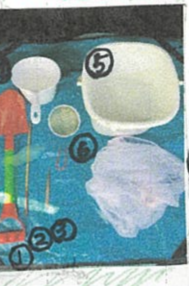
海岸に設置し中の筒を上下させ海水とともにゴミや油膜を吸います。2ミリをこえたマイクロプラスチックも集めることができます。

↑サスティナブルジャパンの東濱社長さんと。

いつか瀬戸内海でもSEABINの活やくが見てみたいです！

砂浜でマイクロプラスチックをとろう！

《用意するもの》
① スコップ
② かき混ぜ棒
③ ピンセット
④ 海水をすくうおけ
⑤ バケツ
⑥ 0.3ミリと5ミリのふるい（今回は、洗濯ネットも使用）

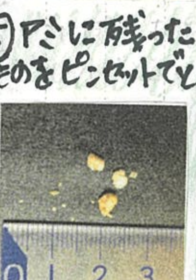


④ 0.3ミリと5ミリのふるいを重ねて海水を流してこす。

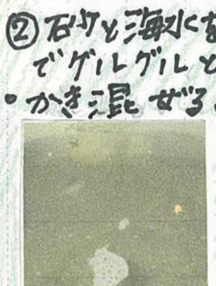
① 砂と海水をすくう。

⑤ アミに残ったものをピンセットでとる。

② 砂と海水を棒でグルグルとかき混ぜる。



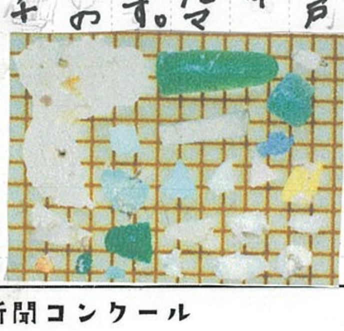
⑥ とれたマイクロプラスチック



③ 2～3分待つとマイクロプラスチックだけ浮いてくる。

身近な問題としてとらえよう！

マイクロプラスチックなどの海洋ゴミ問題は遠い世界の問題ではありません。下の写真は瀬戸内海（松山市中島近く）でとれたマイクロプラスチックです。瀬戸内海全体の海底には、数千億から一兆個ものマイクロプラスチックがねむっていると考えられています。この問題は日本中の海で起こっていることなのです。



ぼくたちにできること

ゴミを拾おう！

買いものに行ってレジ袋を断わって、エコバッグを使ったり、ペットボトルの代わりに水筒を使うなど、ぼくたち小学生にもできることがあります。大事なのは、不要なプラスチックの使用はやめること（個人でできること）、使用したプラスチックはきちんと処理すること（社会みんなですること）です。

ぼくは、これからも自分の使ったプラスチックに責任を持ち、ゴミを拾って美しい瀬戸内海を守りたいです。

海岸のペットボトル1本を拾うと、1km^{2}の広さの海に広がるマイクロプラスチックになるのを防げるよ。

ECO壁新聞コンクール
全国銀行協会、朝日小学生新聞、朝日新聞社